

約30,000人収容の「パロマ瑞穂スタジアム」が誕生 日本管財が総合管理業務を開始

～コンコース開放型スタジアムと「MIZUHO-LOOP」で生まれ変わった瑞穂公園～

日本管財ホールディングス株式会社（本社：東京都中央区、代表取締役社長：福田 慎太郎、以下「当社」）は、グループ会社の日本管財株式会社が維持管理を担うパロマ瑞穂スタジアム（名古屋市瑞穂公園陸上競技場）が、2026年4月22日（水）に供用開始したことをお知らせいたします。

本スタジアムは名古屋市瑞穂公園整備等事業にて整備され、市民の日常利用から大規模スポーツイベントまで幅広く対応するスタジアムとして生まれ変わりました。2026年9月～10月に開催予定の第20回アジア競技大会および第5回アジアパラ競技大会では、メイン会場として使用される予定です。



©株式会社瑞穂LOOP-PFI

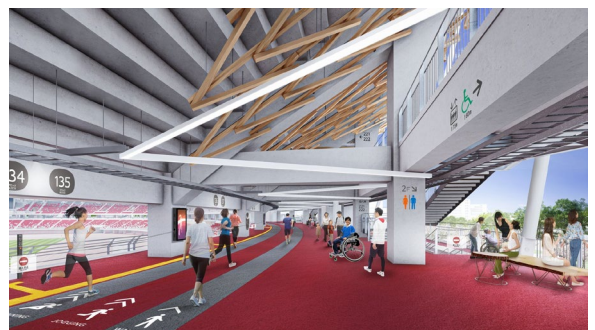
パロマ瑞穂スタジアムの特徴～日常に開かれたコンコース開放型スタジアム～

パロマ瑞穂スタジアム（名古屋市瑞穂公園陸上競技場）は、全席屋根付き約30,000席を備え、陸上競技・サッカー・ラグビー・アメフトなどが実施可能な国際規格に準拠した競技場として供用を開始しました。市民の日常利用から大規模な国際大会まで、幅広いシーンに対応する新たなスタジアムです。

本スタジアムの特徴の一つが、競技やイベントが開催されていない日には、スタジアム外周のコンコースを市民に開放している点です。公園全体の回遊路の一部になっており、ランニングやウォーキングを楽しめる回遊空間として整備されています。

施設概要

施設名称	パロマ瑞穂スタジアム（名古屋市瑞穂公園陸上競技場）		
観客席数	約30,000席（うち、車椅子席約300席）の屋根付き競技場		
構造	鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造の6階建て		
主な用途	陸上競技全般（WA 認証コース、日本陸連第1種公認）、サッカー、ラグビー、アメリカンフットボールなど		
建築面積	約28,500㎡	延床面積	約60,700㎡
供用開始	2026年4月22日（水）		



©2021株式会社瑞穂LOOP-PFI

日本管財ホールディングス株式会社

パロマ瑞穂スタジアムの特徴

大規模イベントが開催されていない日はコンコースを開放
本格的なトラックでウォーク&ランが楽しめる ※前頁で紹介

約3万人を熱狂の渦に包む全席屋根付きスタンド

陸上競技・サッカー・アメフトなど多様な競技・大会に対応

多様なニーズに応えられる座席バラエティ

公園の風景と一体になる空、森、大地をモチーフにした外観

あらゆる人の安心と快適を考えた環境づくり

国内最高水準の環境性能と環境への配慮

旧陸上競技場のレガシーを未来に継承

スタジアム建設時の伐採樹木等をアップサイクル



屋根は鉄骨を渦状に配置し、
熱狂の渦をダイナミックに表
現しています。



車いす利用者席として約
300席、難聴者用ヒアリング
ループ席を約100席を複数
か所に分散配置



旧陸上競技場レガシーを公園各所に配置し記憶
を継承
例) 旧陸上競技場のレリーフをパークラウンジ (に
ぎわいの丘1階) に設置

瑞穂公園の特徴～公園全体をつなぐ8の字の回遊路「MIZUHO-LOOP」～

本スタジアムが位置する瑞穂公園は、山崎川沿いの豊かな自然と桜並木に囲まれた約24ha (240,000㎡) の敷地に広がる都市公園です。

今回のリニューアルでは、園内散策を一層楽しく、訪れる人の数だけ楽しみに出会える公園へと進化しました。スケートボードなどが楽しめるアーバンスポーツ広場、大曲輪貝塚を身近に感じられるおおぐるわ縄文ミュージアム、イベントで活用できる可変型の拠点「P-LOT」などが新設されており、各スポットや広場を8の字の回遊路「MIZUHO-LOOP」でつないでいます。

瑞穂公園の特徴

- 1 開放的なのびのび空間 南ひろば
- 2 子どもたちの冒険王国 東ひろば
- 3 山崎川沿いのオアシス 北ひろば
- 4 まちなか森林浴さんぽ 木かげ広場・木のほひろば
- 5 多様な用途・楽しみ方を提供 「P-LOT」「88の体感ループ」
- 6 注目の競技が楽しめる アーバンスポーツひろば
- 7 国指定史跡「大曲輪貝塚」を身近に おおぐるわ広場・おおぐるわ縄文ミュージアム
- 8 みんなの集いの場 にぎわいの丘
- 9 みんなで育てる花と緑 グリーンフラワープロジェクト
- 10 水とみどりのネットワーク
- 11 雨水を地中に浸透させる グリーンインフラ

詳細はパンフレットをご覧ください



©2021株式会社瑞穂 LOOP - PFI



©株式会社瑞穂 LOOP - PFI

出典：「パロマ瑞穂スタジアムパンフレット」(株式会社瑞穂 LOOP - PFI)

(https://mizuho-loop.jp/wp-content/themes/mizuholoop/pdf/stadium_pamphlet2026.pdf)

日本管財の役割について

今回の事業は、陸上競技場と瑞穂公園の一体的な設計・建設・維持管理・運営と、既存のアリーナ、ラグビー場、野球場等の維持管理・運営などを行うPFI事業です。建設した施設は市に所有権を移転した上で、事業者が維持管理・運営を行うBTO方式で実施しています。

日本管財は、本事業を受託している株式会社瑞穂LOOP-PFI（特別目的会社）に構成員として参画しており、陸上競技場を含む瑞穂公園一帯の維持管理を担当しています。

維持管理・運営期間は2023（令和5）年4月1日から2041（令和23）年3月31日までの18年間です。

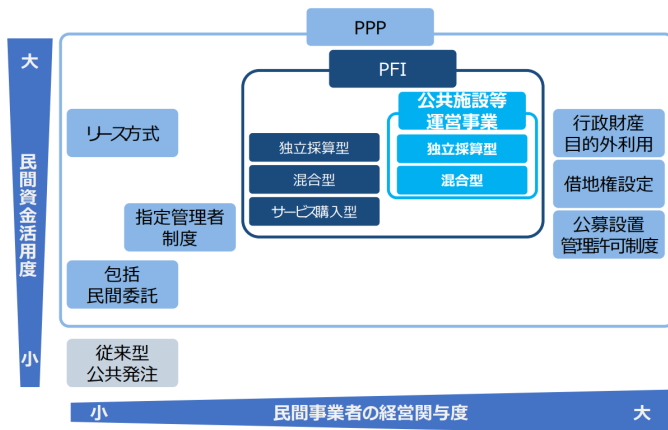
参考：瑞穂公園陸上競技場整備等事業に係るPFI手続き（名古屋市ホームページ）

<https://www.city.nagoya.jp/kankou/sports/1017437/1017485/1017487.html>

日本管財グループの官民連携事業（PPP事業）について

日本管財グループはPFI事業、指定管理者制度、公共施設包括管理などの官民連携事業（PPP事業／Public Private Partnership）に取り組み、地域の生活を支える施設の維持管理・運営を行っています。

PPP/PFI事業の概要イメージ*1



*事業案件ごとに官民の役割分担が異なることから、必ずしも上記イメージ図に合致するものではありません。

日本管財グループのPPP実績

PFI事業：31件（2025年3月期）

- 大学、庁舎、病院、文化施設、スポーツ施設・競技場、MICE、市場、水族館など

指定管理者制度：131件（2025年3月期）

- スポーツ施設、文化・市民ホール施設、地域交流施設、図書館、生涯学習施設、公共住宅など

公共施設包括管理：43件（2026年4月時点）

- 地方公共団体が保有する複数施設
小中学校、保育園、庁舎、生涯学習施設など

*出典：「[PFI事業の概要](#)」（2023年7月）（内閣府民間資金等活用事業推進室（PPP/PFI推進室））

会社概要

社名：日本管財ホールディングス株式会社

所在地：東京都中央区日本橋2丁目1番10号

設立：2023年4月3日

代表者：代表取締役社長 福田 慎太郎

資本金：3,000百万円

事業内容：オフィスビル、集合住宅、環境施設等の管理運営事業や不動産ファンドマネジメント事業等を営むグループ会社の経営管理及びこれに附帯又は関連する業務

URL：<https://www.nkanzaihd.co.jp/>

《 本件に関するお問い合わせ先 / 取材お申し込み先 》
日本管財ホールディングス株式会社 広報・IR・サステナビリティ推進室
E-mail：kouhoirm@nkanzaihd.co.jp